

人の動き

No.99

40. 12. 5 発行

発行人

佐呂間町長 船木長一郎

編集人

庶務課 第二係

印刷人

佐呂間印刷

世帯数

2,842

人口

12,609

男

6,312

女

6,297

10月31日現在人口

# さるま



(さるま保育所のこどもたち)

みんな笑つて

今年を送ろう

泣いても笑つても、と云うことがあります。今年  
もあと旬日となつてしましました。

一年、三六五日、どうしてこうも早いのだろう。今年  
を省りみて、それ／＼に想起す事柄も多いことゝ思  
うが、プライベートな問題は別としても交通事故、火  
災、犯罪の多いこと、世の中が騒々しい、考える暇がな  
いのではないだろうか。経済不況、物価の値上げ等自  
分達の身の廻りは暗い事ばかり。

何時も明日は、来年こそはと思つては見るが……  
しかし、ごらんなさい。子供達の笑顔、純心な肉体、  
精神は、世の不況どこ吹く風、皆んな元気にすくく  
育つっています。  
希望と勇気を持つて明日え進もう。

(K)

人事

教育委員会委員を任命する（教育長） 相田 政之

総務部民生課事務を嘱託する

鈴木 謙

農政兼農業構造改善係長を命ず

経済部産業課長を命ず

総務部税務課徵収係長を命ず

民生課社会係を命ず

税務課徵収係を命ず

税務課賦課係を命ず

民生課勤務を命ず

役場御用終い

十二月三十日

御用始め

大門謙一  
清原伸一

佐藤敬介  
川瀬寛

諸岡照男  
大島満



運転に酒はのまない  
飲ませない

酔っぱらい運転の完全防止

（毎号綴じて保  
て下さい）

# 成落舍々学校中



(新校舎全景)

町ではかねて懸案でありました中学校統合による校舎増築工事を施工しておりましたが十一月二十九日竣工、五日落成式が行われました。先にテレビで放送されましたが新校舎の総面積は九一四、九四平方米(約二七六、七六坪)の鉄筋コンクリート造二階建、一部鉄骨平屋建で製作室、衛生室、放送室、家庭科室準備室、更衣室、図書室、美術室、普通教室等万端整備された近代的建物で小学校、高校等と合せて町行政の教育面でのウェイトの大きさがうかがわれます。

(側面より製作室等)



## 海藻類人工採苗場

### さるま湖に新設される

サロマ湖は内水面漁場として、現在ホテタカイ種苗生産地、カキ養殖生産地として全国に知られるようになりましたが、一方外海の資源が年々少なくなるため、数年前から沿岸

### 国民年金に加入して

年をとつて介けなくなつてしまつてから、あれこれと生活の苦労をしなければならないということは実に悲しいことです。

公務員や会社員には

共済組合や厚生年金があつて老後の生活は、ある程度保障されていますが農業や漁業に従事している人、自分で商売をしている人などはいつたいど

### 老後の安定を

満二十才以上のかたで、共済組合厚生年金、船員保険などの年金制度に加入していない方は、必ず加入することになりますので該当する方は、役場窓口で加入手続きを御相談下さい。

漁民は「トル」漁業より「育ててる」という近代的な養殖事業に取組んで、ノリ、ワカメ、ホタテ、カキなどの資源養殖をかかると共に、更にサロマ湖が養殖漁場として発展するための施設設置について、関係方面に運動を展開していましたところこのたび、一、八〇〇万円の巨費をあいました。

昨年は播種期の低温、生育期の長雨、そして収穫期の大害など、悪条件が重なつて農作物の被害をうけましたが、本年は七月下旬の低温により水稻幼穗形成期の大害時に冷害を受け稲作は殆んど収穫がありませんでした。

町では冷害対策の一環として被害稻作農家の現金収入を図るため、救農土木事業費を、十一月二十日の議会で議決、二十二日、自治会長会議を開催して、箇所付と事業費の配分を行つて、十一月下旬から各地区一斉に、救農事業を始めました

地区別事業費、事業内容は次のようになつています。

### 救農土木事業実施計画

地区名	事業費 千円	事業内容	賃 千円
西富、北佐呂間の一部 東区、知来	430	道々砂利採取事業	401
来	350	全上	341
仁倉	280	町道側溝堀事業	270
共立	280	全上	270
大成、啓生	940	道路改良河川切替	893
中園、川西	810	町道側溝堀事業	786
武士、朝日	210	"	190
計	3,300		3,151

### NHK相談室

NHK北見放送局では管内一円の視聴者から放送番組や受信料、あるいはラヂオ、テレビの受信相談その他意見、要望、苦情などを広く聞くため役場え「NHK相談室」を開設しました。

御意見、御要望などある方はお気軽に役場広報係迄申出て下さい。

お取次を致します。

# あなたも人の子 人の親

# 酒酔い運転はやめましょう

歳末交通事故等を

なくしましよう

毎年の事ですが、年末になりますと、経済不況もあ  
りましょうが人々の心もいらだち、気忙しくなつて来  
ます。そんな時に最も起き易いのが交通事故、犯罪  
火事等です。過日行われました町防犯合同会議では  
年末を控え次の様なことがらを注意指導することを話  
し合いましたので運転の方、一般町民の方はお互に道  
徳を守り生活をよりエンジョイしましょう。

お酒を呑んで車を運転していると、はじめはあまり酔つていなくても、運転しているうちに酔が廻つて来て物を正確に見ることが出来ず、また、動作が鈍くなつて安全な運転が出来なくなり、事故をおこすことになります。その上、酒酔い運転による事故は、必ずといってよい位大きな事故を起して自分はおろか、場合によつては他人を連れにする、自殺行為となるります。

酒を呑む場合には、絶対に車を運転して行かないようになります。どうしても行かなければならぬ時は、車を置いてタクシーかバスを利用する。

車を運転している人には、絶対に酒を飲ませないようにする。また他人が飲ませようとしている時はお互に注意をして事故防止を呼びかける。

道路交通法では、たとえ酔つていなくても、運転者のからだの中に、一定量以上のアルコール分が残つていれば車の運転が禁止されています。また、酒気を止めていて事故をおこすと、普通の場合は二倍も重い処罰を受けることになっています。

● 滑走事故を防止すること

(1) 車輪にはスノーブレーキ又は滑り止めのチエンを必ず装着すること。

(2) スノーブレーキは大型車両の場合は刻みの深さが一〇ミリ以上その他のは七ミリ以上でなければならない。

(3) アイスバーンの上はスノーブレーキだけでは十分ではないので後輪にチエンを取り付けること。

(4) 市街地や曲りかどカーブそれに下り坂は滑り止めの装置を置いても危険があるから減速徐行運転すること。

● 児童幼児の事故を防止すること

① 戒末は市街地商店街等の歩行者の通行が増加して交通もふくそうするが特に児童幼児は気分もうわついで車輌交通には無関心であるから運転者は勿論保護者も交通事故からこれら小さな生命を守るように細心の注意を忘れないこと。

② 運転者は学校、幼稚園、保育所等の前を通る時は必ず徐行を励行すること。

③ 横断歩道も、積雪で見えなくな

(1) 車輪にはスノータイヤ又は滑り止めのチエンを必ず装着すること。

(2) スノータイヤは大型車輛の場合には刻みの深さが一〇ミリ以上その他は七ミリ以上でなければならない。

(3) アイスパンの上はスノータイヤだけでは十分ではないので後輪にチエンを取り付けること。

(4) 市街地や曲りかど一ブそれに下り坂は滑り止めの装置をしていても危険があるので減速徐行運転すること。

(2)スノータイヤは大型車輛の場合  
は刻みの深さが一〇ミリ以上そ  
の他はセミリ以上でなければな  
らない。

(3)アイスバーンの上はスノータイヤ  
だけでは十分ではないので後輪  
にチエンを取り付けること。

(4)市街地や曲りかどカーブそれに  
下りざかは滑り止めの装置をし  
ていても危険があるから減速徐  
行運転すること。

(1) 指導員の方は、歳末の期間中代で街頭進出をし、歩行者、転者等に正しい交通の方法を

ことしも残り少なくなり、あ  
たらしい年の瀬を迎えました。  
毎年のことながら、この時期  
なると人のスキにつけ込んだ大  
やひつたくり、あきす、置き引き  
、さぎなどの犯罪がふえてきます

このような被害をなくして、明  
く楽しい正月を迎えるため、特  
次のことがらに気をつけましよ  
◎スリの用心

スリの用心

年末犯罪を防ごう（派出所だより）

つてるので、運転者は、交差点附近は徐行し、歩行者がある場合は必ず、一時停止を守ること。  
道路を広く使うように、がねること。

自衛隊協力会発足

(2) 指導員は、指導手帖の指導要領をよくよんで、正しく積極的な指導をするように心がけること、専門会議等では割当計画を行い、その実行を促進すること。

(協力会総会



- ・外出するときには、必ず、るす番をおくか、それができないときには、ちよつとの間でもカギをかけて隣り近所に頼んでおく。
- ・カギは、じょうぶなものを使い戸は持ちあげても、はずれないようになに落し釘を利用する。
- ・るすと、ひと目でわかるようにカーテンをかけたり、新聞受けに新聞を入れ放しにしておくことは危険です。また、外からハツキリわかるようにカギをかけるのはやめる。
- ・玄関や窓、勝手口に限らず、人が出入できる、らん間や便所の掃きだし口にもカギをかける。

# 火事のシーズンです

生命財産を火災から

守りましょ

年々増加している火災のほとんどは、火を取り扱う者のちよつと

した不注意や不始末によつて発生

しています。火災の発生を防ぐた

めには、住民一人一人がお互いに

注意し、協力して防火に努めなけ

ればなりません。

北海道の冬は、必要以上に暖をとらなければなりません。火の扱いは無意識のうちに、おろそかにならうという心理的なことから、一年中で最も火災の多い時期にあ

ります。

この機会に最も身近にあつて、しかも矢くことのできない「火」がちよつとした不始末からでも恐ろしい火災に結びつくことを再認識し、火に対する細心の注意を、そして火器具類の正しい扱い方を確実に会得して、たいせつな命や貴重な財産を失わないようにして下さい。

(◎ストーブや煙筒による火災の防止)

道内における火災原因のトップはストーブと煙突です。このため壁との距離を十分とること、その周囲に薪や洗濯物など燃えやすいものを絶対に近づけないようになります。また煙突については必ずめがね石を使用することなどに注意し、煙突掃除を励行してください。

(◎たばこによる火災の防止)

たばこは現在どんな場所でも喫煙されていますが、喫煙のエチケットとしても一般家庭に限らず、事業場、興行場などでは、必ず灰皿のある場所で喫煙するよう習慣づけることがたいせつです。喫煙の後始末は確実に行つてください。

(◎焼死傷事故の防止)

道内では昨年一年間に火災により死傷した人の数は、五百十五名にのぼっています。

冬でも部屋の温度はたいてい二十度になつています。

これは八月の気温と同じですから、水分と温度のすきな細菌はどんどん繁殖します。

つまり冬でも食中毒はなるので店でも多量の食品を取り扱う関係でやゝもするとその取り扱いが粗雑になり、不良食品がでまわることになります。これらの不良食品は、外観的にはまったく見分けがつかないので、食品を買いう時には、次のことが

らに充分注意しましよう。

(1)衛生的で信用のある店で買う。

(2)色の濃いものや、不自然に白い

(◎一泊二食三千円)

一泊旅行の場合、旅館で一泊二千円といわれたら、支払は二千五百円かかると考えなければなりません。税金、サービス料などもい値より二五%ほど高くなることを知つておくと便利。(一泊旅行)